

11月に気になった出来事

<1> マイナンバー通知のいざこざ

マイナンバー通知文書の郵送が始まった。「不在で配達されないものが沢山ある」とか、「誤配があった」とかとか・・・、郵便局の配達員を悪者にする話が数多く報道されている。

ある日我が家にも配達されてきた。宅急便のように配達時間帯を指定してあるわけではないので、夫婦そろって外出が多い我が家への配達は、郵便局の配達員を悩ませたに違いない。

夜の闇が降りた7時頃だったのだろうか、玄関のチャイムが鳴った。玄関の灯りを頼りに配達員の方が「住所・個人名の確認」の上、伝票への捺印を経て郵便物を手渡してくれた。そして「ご確認下さい」と言うので宛先を確認した。「郵便番号・住所・宛名」、さほど明るくもない玄関での判読はかなり難しい感じがした。小さな文字・薄い印刷、老眼と乱視が混じっている私の目では読みとりは難しいように思い、めがねを取りに行きようやく確認することができた。

「遅くまで大変ですね、どうもありがとうございます。たまには余計なことを言う人もいるんでしょ？」受け取った後であらためて郵便物の宛名印刷部分を凝視して見た。そして傍らの「文字サイズ表」と照らし合わせて見たら、「8ポイント」程度の文字サイズのようなだった。

しかもトナーの乗りが悪い文字は、どうひいき目に見ても「暗闇での判読」に適した印刷物とは思えない。こんな郵便物を、雨の日でも風の日でも、暗くなるまで、一軒ずつ訪ねて、受領印をもらいながら配達する人の労苦を思う人はどのくらいいるだろうか。

NHKのニュースを見ていたら、「郵便局員の不手際で誤配が生じた」と報じた後で日本郵便の幹部の方が三人並んで謝罪していた。不埒な行為をした郵便局員もいたのかもしれないが、汗をかくこともなく手を汚すこともない偉そうな人たちが「事実を細かに見つめることもなく」いとも簡単に「郵便局員の不手際」だけで終らせようとしている光景に不快感を催した。

郵便配達のアルバイトをして学費を稼いだ時代もあったから言うのではないが、一言言わないと治まらない気分だった。

<参考情報> 文字の大きさ

あいうえお=これはMS明朝 11ポ あいうえお=これはMS明朝 10ポ

あいうえお=これはMS明朝 9ポ あいうえお=これはMS明朝 8ポ あいうえお=これはMS明朝 7ポ

<2> 杭打ち偽装事件の裏を読む

ビルの基礎を司る杭打ちのデータを偽装した上、手抜き杭打ちをした工事の問題が発覚した。連結したマンションの微量の段差が問題を浮かび上がらせた。俗に言われる「大手企業」の系列の会社の名前が浮上したが、ニュース報道での基本トーンは「特定の担当者が関係している」というものだった。

小さな町工場での出来事ならばともかく、ある一定のサイズ以上の会社で一部の社員だけでルール違反を犯し続けることは不可能なのが普通である。どこかに検証の目が入ったりチェック機構があったりで、いくつものプロジェクトで長い間アウトローを継続することは困難な筈だ。

企業の間で流行した「品質管理(QC)」や「ISO9000」などに基づく正しい仕事の仕方が機能しているとしたら、このようなことを行うことはできないだろうし、よしんば行うことができたとしても内部の監査機能が生きていれば問題が表面化するのが普通だろう。

問題となった企業が外部に対して「ISO9000認証企業」と旗を掲げているとしたら、まさしく「虚飾の企業」と言うことになる。

最初のニュース報道を聞いた時に、「もしかして、これは企業ぐるみの犯罪では・・・？」と感じたのは私だけではないだろうと思う。

ドイツの自動車メーカーの燃費データ偽装の事件も重ね合わせて見ると・・・。

<3> 崩壊のシナリオか？

平成 27 年 11 月時点での国会議事堂の中の勢力分布 (院内会派別議席数) は下表のようになっているようだ。

	衆 議 院		参 議 院	
自由民主党	291		113	
公明党	35		20	
民主党	71	無所属クラブを含む	58	新緑風会を含む
維新の党	29		5	
日本共産党	21		11	
維新の会新党	11	おおさか維新の会	6	おおさか維新の会
生活の党	2	山本太郎となかまたちを含む	3	山本太郎となかまたちを含む
社民党	2	社民党・市民連合	3	社民党・護憲連合
日本を元気に			7	日本をよくする会
次世代の党	6		5	
無所属クラブ			4	
新党改革			2	新党改革・無所属の会
無所属	12		5	各派に所属しない議員
欠員	1		0	
議席数合計	475		242	

自民党の一部が分派別行動・民社党の分裂解体・社会党の崩壊などの出来事を経て民主党が誕生した。思想・方針・政見などが異なるメンバーによる集団であることが素人の目にもわかるようなものが合体して何ができるのかと疑いの目で見続けていると、やがてそのとおりの結果となった。そして何だか正体のわかりにくい政党や政治集団が林立して、投票をする側からすれば得体の知れぬ世界になってしまった。公明党が自民党にすり寄ったことで与党集団が形成されはしたが、過去の公明党の政見からすれば意味不明な行動だった。結局公明党は国家権力の一部が欲しかっただけなのではないかとの見方をする人もいる。民主党はその成り立ちから見ても一枚岩でないことは明らかで、党内をひとつの見解にまとめることは困難な集団である。そんな政党が数合わせで政権を取っても仕事が出来るとは思えなかったが、予想通りの結果になった。未だに他党との数合わせで再び与党の座を得ようとしているが、連携先の選択の段階で方針が定められずにいる。

テレビで活躍したタレント弁護士が選挙に登場して、既存の政党からの脱藩者も交えて大阪を制し国会にも進出する結果となった。タレント首長がお好きな大阪の方たちには受けたようだが、全国レベルでは「今一つ意味のわからない政党」との見方がもっぱらで、一般人の評価は厳しい。

地方選挙の結果も含めて共産党の躍進が続いた結果、衆議院で 20 議席を越える集団になってきた。寄せ集めの数合わせ政党ではないので、この議席数は力の上では意味のあるものになってきた。

ところがなんと、「維新の党と対決するために自民党と選挙協力」をしたり、野党共闘により対決していく目的で「民主党との連携を提案」したりし始めた。

政見・政策の是非はともかくとして、これまでの日本共産党の立ち位置は解りやすいものだったが、このような動きをとることは「立ち位置を不可解なものにする」ことになり、評価しがたい。日本共産党への投票の殆どは黨員や党関係団体によるものであろうから一般人の評価による影響は少ないだろうと見ている。

しかし、自民党や民主党との連携や選挙協力を巨大な日本共産党の党組織が是認するとは考えにくい。このような動きはいずれ「幹部の更迭」を求める動きに繋がって行くことにはならないのか？

そして、これが「日本共産党崩壊のシナリオ」の序章だとしたら・・・・・・。

<4> 猫も杓子も・・・・

先代三遊亭金馬の「やかん」という落語の中にこんなシーンがあった。

横町のご隠居さんが長屋の住人に古くからある言葉の解説をする。無学無筆が多かった長屋に、博学博識で役に立つ人がいるかと思えば、知ったかぶりの人もいたそんな時代の話。

「月とすっぽん」と言う言葉があるが、あれは誤りで正しくは「月と緋盆」。「緋色の盆と満月の月は似たような色形をしているが全くことなるもの」との意味で「緋盆に月」と言うのが正しいと語る。

さらに「猫も杓子も・・・」という表現は誤りだと言う。「猫も杓子も踊り出し・・・」と聞くことがあるが「猫や杓子が踊るのを見たことないだろ?」、「女子（めこ）も若子（じゃくし）も・・・」が正しいと。ある雑誌を読んでいたら、さる芸人へのインタビューが載っていた。

「最近、杖をつかれていらっしゃいますが、具合はいかがですか?」と出て来たので驚きながら読んでいたら、次に「XXホールで六日連続の会をされていらっしゃいました・・・」と出て来たので、またまた驚いた。

こういう表現が口では使われるだけならば一瞬の耳障りだけで過ぎてしまうが、活字になってしまうと鮮やかに残ってしまい、繰り返し読むたびに違和感が膨らんで行くから恐ろしい。

インタビューを受けた芸人はどのように感じただろうかと、(余計なことかもしれないが) 気になってしまった。

私自身もとある雑誌社のインタビューを受けた時に「お休みの日にはどんなことをなさっていらっしゃるんですか?」と尋ねられてびっくりしたことがあるし、この種の違和感体験を並べ始めたらきりが無い。

過剰敬語や過剰丁寧語のみならず、近頃日本語の乱れが数多く指摘されているが、このまま放置しておいて良いのだろうかと心配である。

横町がなくなってしまったことが原因なのか、横町に長屋がなくなってしまったのが原因なのか、はたまた横町にご隠居さんがいなくなったことが原因なのか、よくわからないが・・・・。

<5> なんでもかんでもスマホ

子どものおもちゃを直してあげるおもちゃ病院を時々開いている。ある日息子の車を一台持って来た人が「動かないので直してもらえないか」と。

良く見るとラジコンの自動車だったが、操作用のコントローラが付いていなかったのので問いかけると「スマホにダウンロードして、スマホをコントローラとして使うおもちゃ」だということがわかった。こんな所までスマホが進出してきているのかと驚いた。

ある時はラジコンのコントローラになり、ある時はテレビやエアコンのリモコンにもなる。

知人の息子さんがIT系の会社に勤めていると聞いた。どんなことをやっているのか聞いて見たら「スマホ用のアプリ」を作っていると言う。さらに尋ねて見ると時給なんぼかの随分安い給料のようだった。

「スマホで使える」がやたらに増えており、公共施設の手続きや自治体の諸手続きまでがそうなりつつある。公共サービスや商業系の会社の中には「ホームページから手続き可能」や「スマホから手続きできます」が売りになっているものが増えてきている。

スマホを使っていない人のことは一切無視して世の中の仕組みが作られていく現状、何でもスマホ化するために作られる「スマホアプリ」と称する小品が安い給料で作られまくっている現状。

ある時はコントローラになり、ある時はクレジットカードになり、またある時はパソコンになり、またある時は携帯電話になるスマートフォン。使用者も自覚なく使っていくつもの事件を起こしている昨今。

今や「第二のダイナマイト」、いや「第二の原子力」になりつつあるのかもしれない。

<6> 光・光・・・うるさい光

春は桜のライトアップ、夏は水辺のライトアップ、秋は紅葉の木々にイルミネーション・・・、冬は湯と氷に・・・なぜこうもライトアップとイルミネーションが好きなのか私には理解できない。

物には固有の色がありそれを楽しむから良いのであって、人工的な光線による着色をしても本来の美しさとは無縁な物を見ることにしかならない。また、夜になると夜なりに暗く見えたり、朝が来れば再び明るく見えたりするから良いのであって、夜を徹して光りを照射するなど本末転倒・言語道断・支離滅裂の極み。

ましてや、植物に24時間光をあて続けたら「生物が育つ環境」に悪影響があるのではないか。

エネルギー危機の時には電力を大事に使おうとのことからライトアップが控えられたが、ほとぼりがさめる

ともう留まる事を知らぬ広がり方になっている。

「LED だから電気代はかからないで済む」という弁明が随所を飛び交っている。ひとつひとつの LED は電気を少ししか喰わないかもしれないが、5 万個 10 万個の LED によるイルミネーションやライトアップとなれば馬鹿にはできない。そればかりか LED だってサファイヤやガリウムなどを原材料として、膨大な量の水と電気を使って作られている。

ニュースでライトアップに関する報道があると必ずテレビに向かって小声で問いかける。

「なぜ必要なの?」「なければいけないの?」「お金いくらかかるの?」「その金誰が出すの?」

「そのままじゃ何故いけないの?」

以上